

豊中市の公共交通利用状況

平成27年（2015年）6月

豊 中 市

目次

<表 題>	<ページ>
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
1. 鉄道と路線バスの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02
1. 1 鉄道の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	02
1. 2 路線バスの状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	03
2. 近畿圏パーソントリップ調査を用いた分析・・・・・・・・・・	04
2. 1 トリップ数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	04
2. 2 本市内および市外との流動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・	06
2. 3 交通手段の分担率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	07
2. 4 本市内各駅への手段別アクセス状況・・・・・・・・・・・・・・・・	09
3. 本市内の公共交通利用状況調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
3. 1 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
3. 2 最寄り駅や最寄りバス停までの所要時間等・・・・・・・・・・	11
3. 3 日常生活における移動制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
3. 3. 1 通勤・通学における移動制約・・・・・・・・・・・・・・・・	13
3. 3. 2 買い物における移動制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	14
3. 3. 3 通院における移動制約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	15

はじめに

本市は、阪急宝塚線・神戸線、北大阪急行、大阪モノレールといった鉄軌道と、阪急バスによる路線バスのネットワークのほか、大阪国際空港や高速道路・幹線道路などの立地により、交通便利性が高いまちとしての特徴を有しており、市民意識調査では公共交通に対する市民の満足度が高いまちであるとの結果が得られています。

一方で、少子高齢化の進行による人口減少や北大阪急行線の延伸事業など、公共交通を取り巻く環境が変化していく中で、今後の本市における公共交通のあり方について検討を進め、将来予測される新たな課題に備える必要があります。

この冊子は、その手始めとして、本市における公共交通の利用状況を把握するため、公共交通に関する市民アンケートや近畿圏パーソントリップ調査などの既存調査結果を基に、市内外の人々の流動、交通手段の分担率、移動に制約を感じている人の割合などについて、本市として初めて取りまとめたものです。

【地域区分】

本冊子における地域区分は、「豊中市都市計画マスタープラン」に基づくものである。

表1 地域区分

地域	地域区分
北部	大阪中央環状線以北の地域および千里緑地以西の地域
北東部	千里ニュータウンおよび上新田からなる地域
中北部	阪急宝塚線沿線地域で千里緑地以西および旧大阪中央環状線以北の地域
中部	阪急宝塚線沿線地域で旧大阪中央環状線以南および名神高速道路以北の地域
西部	阪神高速道路および大阪国際空港周辺緑地以西の地域と阪急蛸池駅周辺の地域
東部	北大阪急行・御堂筋線沿線地域で天竺川以東および名神高速道路以北の地域
南部	名神高速道路以南の地域

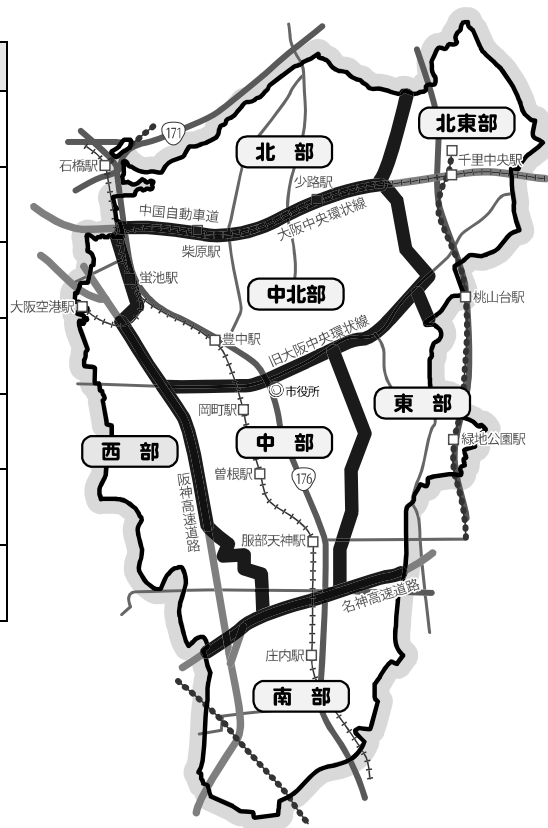


図1 地域区分図

1 鉄道と路線バスの状況

1. 1 鉄道の状況

- 本市には、3社13の鉄道駅がある
- 本市内各駅の乗降人員は、平成20年から24年にかけて2.4%減少している
- 乗降人員の減少率が大きい駅は、大阪空港駅（11.7%減）、緑地公園駅（6.7%減）、庄内駅（6.3%減）、曾根駅（4.2%減）の順である

表1. 1 本市内各駅の乗降人員の推移

（単位：上段は人、下段は平成20年を100とした指数）

		平成20年	平成22年	平成24年
阪急電鉄	庄内駅	33,932	31,907	31,789
		100.0	94.0	93.7
	服部天神駅	25,981	25,560	25,641
		100.0	98.4	98.7
	曾根駅	26,482	25,770	25,381
		100.0	97.3	95.8
	岡町駅	18,950	18,221	18,397
100.0		96.2	97.1	
豊中駅	52,953	51,894	51,847	
	100.0	98.0	97.9	
蛍池駅	39,326	38,186	38,102	
	100.0	97.1	96.9	
阪急電鉄小計		197,624	191,538	191,157
		100.0	96.9	96.7
北大阪急行電鉄	緑地公園駅	34,150	31,847	31,878
		100.0	93.3	93.3
	千里中央駅	89,416	85,403	87,834
		100.0	95.5	98.2
北大阪急行電鉄小計		123,566	117,250	119,712
		100.0	94.9	96.9
大阪モノレール	大阪空港駅	13,439	12,570	11,866
		100.0	93.5	88.3
	蛍池駅	22,293	21,789	22,141
		100.0	97.7	99.3
	柴原駅	8,616	8,538	8,809
		100.0	99.1	102.2
少路駅	8,851	9,038	9,668	
	100.0	102.1	109.2	
千里中央駅	32,752	32,708	33,891	
	100.0	99.9	103.5	
大阪モノレール小計		85,951	84,643	86,375
		100.0	98.5	100.5
本市内全駅計		407,141	393,431	397,244
		100.0	96.6	97.6

出典：「豊中市統計書」

1. 2 路線バスの状況

- 乗車人員数が特に多いバス停留所は、千里中央、次いで豊中である
- 乗車人員数の増減率は、平成 17 年と平成 22 年との比較において、全体で 5.8%減である。乗車人員数が多い千里中央が 3.0%減、豊中が 10.6%減である。減少率が高いものは、阪急曽根 28.0%減と梅花学園 23.9%減である

表1. 2 本市内阪急バス停留所の乗車人員の推移

	平成 17 年 (人)	平成 22 年 (人)	増減比率 (%)
市内バス停計	53,756	50,629	-5.8
千里中央	20,022	19,424	-3.0
豊中	7,676	6,866	-10.6
北緑丘団地	991	903	-8.9
東豊中団地	949	991	4.4
梅花学園	787	599	-23.9
阪急曽根	775	558	-28.0
豊中高校	771	710	-7.9
永楽荘 4 丁目	690	655	-5.1
東豊中小学校前	541	536	-0.9
熊野田小学校前	541	467	-13.7

出典：「豊中市統計書」

2. 近畿圏パーソントリップ調査¹を用いた分析

2. 1 トリップ数²の推移

○総トリップ数の推移

- 本市在住者の総トリップ数は、平成2年度から平成22年度にかけて減少している
- 平成22年度の総トリップ数は、平成2年度を100として82.3である

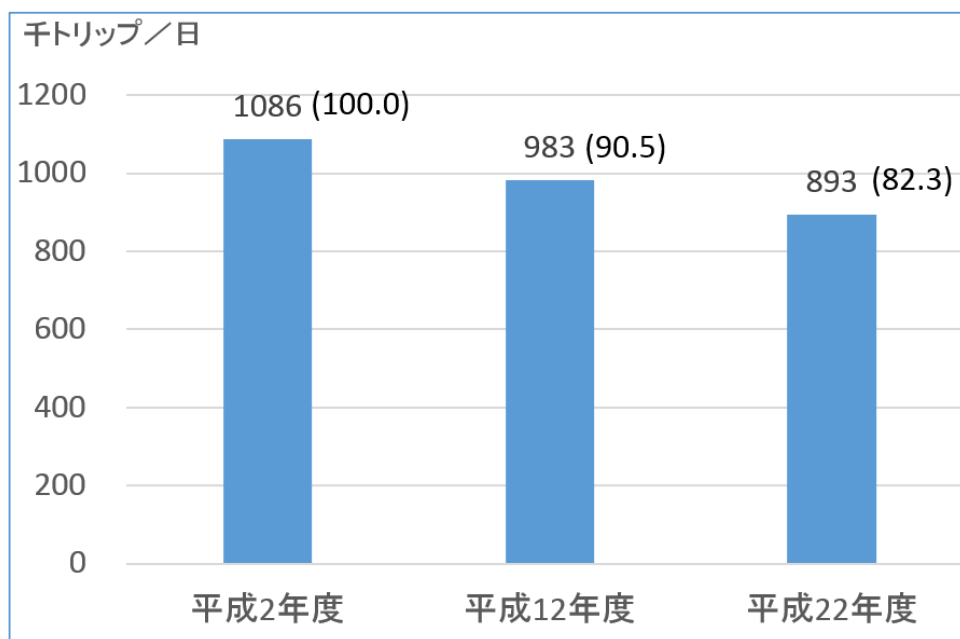


図2. 1 本市在住者の総トリップ数³の推移

出典：近畿圏パーソントリップ調査

¹ パーソントリップ調査は、調査対象地域内における人の動き（パーソントリップ）すなわち「いつ」「どこから」「どこまで」「どのような人が」「どのような目的で」「どのような交通手段を利用して」移動したのかを調査し、人の1日のすべての動きをとらえるものである。近畿圏では昭和55年から10年ごとに実施されている。

² トリップとは、人がある目的をもってある地点からある地点まで移動することで、1回の移動でいくつかの交通手段を乗り換えた場合も1つのトリップと数える。

³ 本市在住者の1日のトリップ数の合計である。

○年齢別トリップ数の推移

- 本市在住の 10 歳代後半～50 歳代前半のトリップ数は、減少傾向にあり、特に 20 歳代から 30 歳代では、ここ 20 年間で 1 トリップ程度減少している
- 一方で、本市在住の 60 歳代後半以上のトリップ数はやや増加傾向にある
- これらのことから、本市に居住する生産年齢人口層（15 歳以上 65 歳未満）は、とりわけ 30 歳代以下の比較的若い世代では活発に移動する人が減ってきており、一方で本市在住の高齢層では活発に移動する人が増えてきているものと考えられる

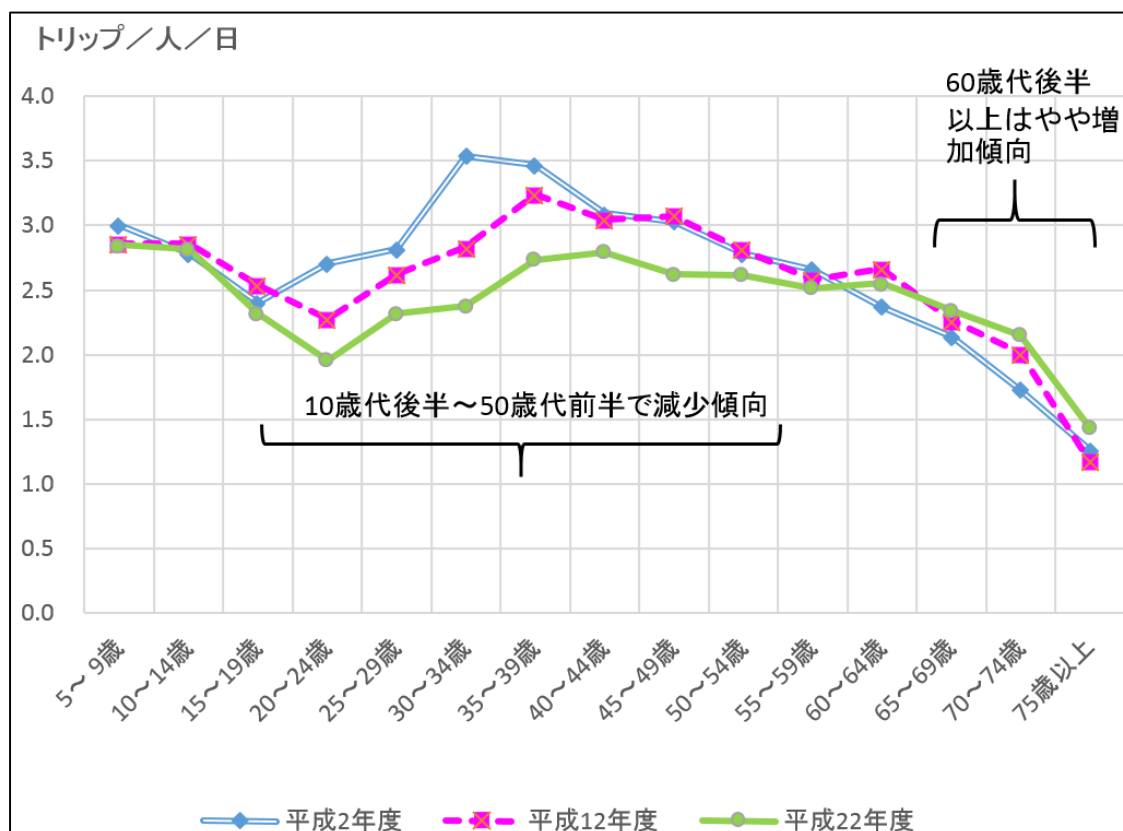


図2. 2 本市在住者の年齢別 1 人あたりトリップ数の推移（平日）

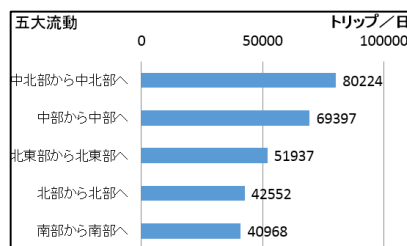
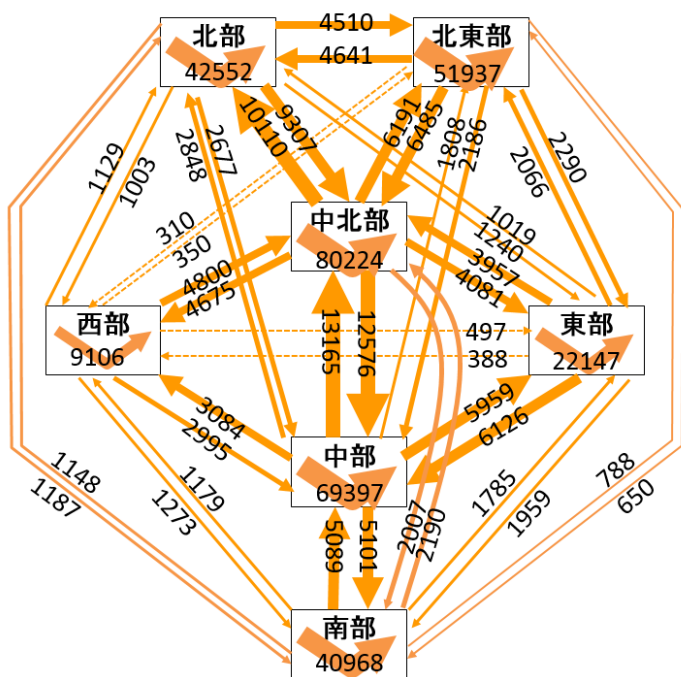
出典：近畿圏パーソントリップ調査

2. 2 本市内および市外との流動状況

○全目的での流動状況

- 本市内各地区間の全目的での流動量は、地区内が上位を占めており、最も多いのは中北部地区内では、約8万トリップである
- 本市内各地区と市外との流動量は、中北部と大阪市との流動が各々2万トリップ以上、中部と大阪市との流動が各々1.9万トリップ前後であり、大阪市との結びつきが強い
- 流動方向では、南北方向に比べ東西方向は小さい。中部と東部の流動は6千トリップ前後、西部・南部を除く各地区と吹田市との流動は4千トリップ以上である

豊中市内各地区間の平日・全目的・全代表交通手段(トリップ/日)



豊中市内各地区と市外との平日・全目的・全代表交通手段(トリップ/日)
(2千トリップ/日以上のみ表示)

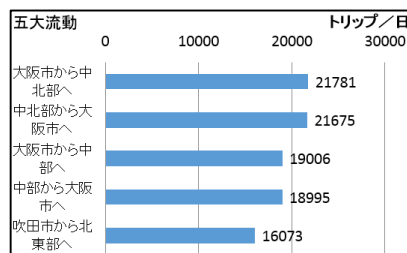
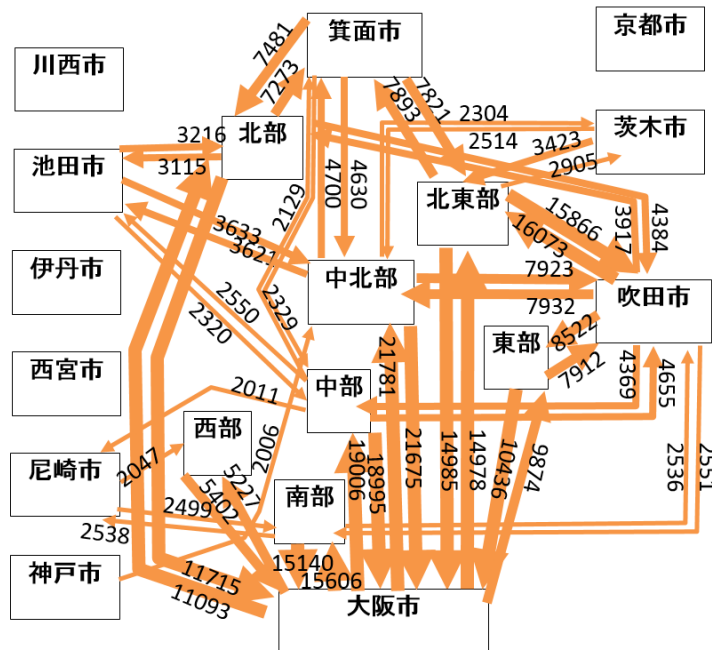


図 2. 3
平日・全目的・全代表
交通手段の流動状況

2.3 交通手段の分担率⁴

○自動車分担率の推移

- 男性の自動車分担率は、20～50 歳代で減少傾向にあり、60 歳代以上では増加傾向にある
- 女性の自動車分担率は、20～30 歳代がやや増加しており、40 歳代以降が大きく増加している
- 生産年齢層の男性の自動車離れが進む一方、高齢男性や、中高年女性の自動車利用が高まっている

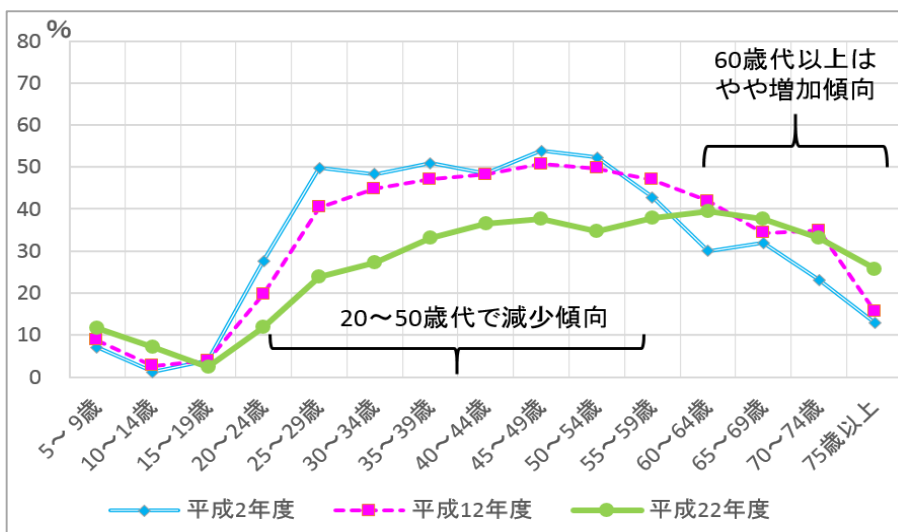


図2.4 本市に関連する⁵年齢別自動車分担率の推移 (男性)

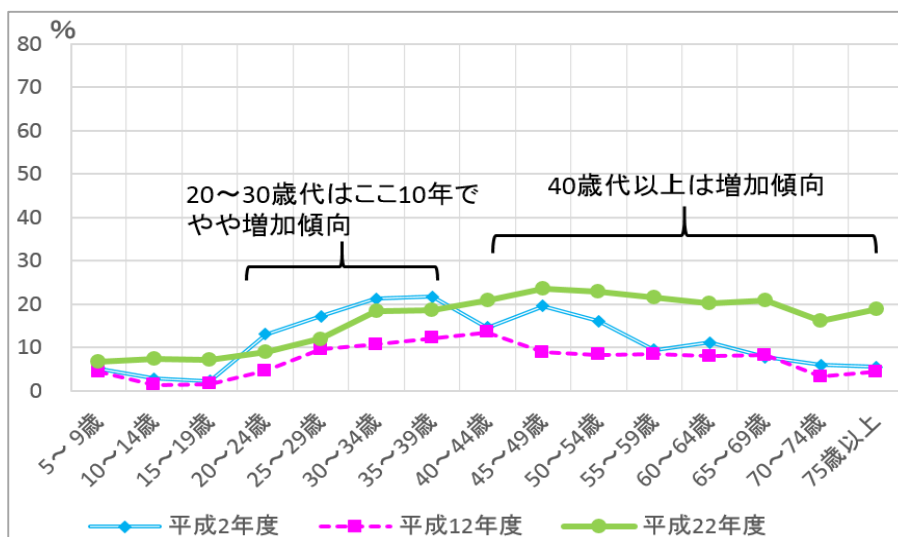


図2.5 本市に関連する年齢別自動車分担率の推移 (女性)

出典：近畿圏パーソントリップ調査

⁴ 分担率とは、ある交通手段のトリップ数が全交通手段のトリップ数に占める割合である。

⁵ 「本市に関連する」とは、「本市を出発地または目的地とするトリップの」という意味である。

○本市全域での交通手段の分担率

本市全域を出発地または目的地とするトリップの代表交通手段分担率を目的別にみると、

- 全目的では、平日では、徒歩が29.7%、自動車が22.0%、鉄道が20.6%、自転車が19.3%の順である
- 出勤目的では、平日では、鉄道が42.6%、自動車が20.7%の順である
- 登校目的では、平日では、徒歩が56.4%、鉄道が22.3%の順である
- 自由目的では、平日では、徒歩が36.2%、自動車が23.7%、自転車が22.5%の順である
- 業務目的では、平日では、自動車が45.4%、鉄道が17.0%の順である
- 帰宅目的では、平日では、徒歩が30.6%、鉄道が20.8%、自動車が20.4%の順である

豊中市全域(平日)

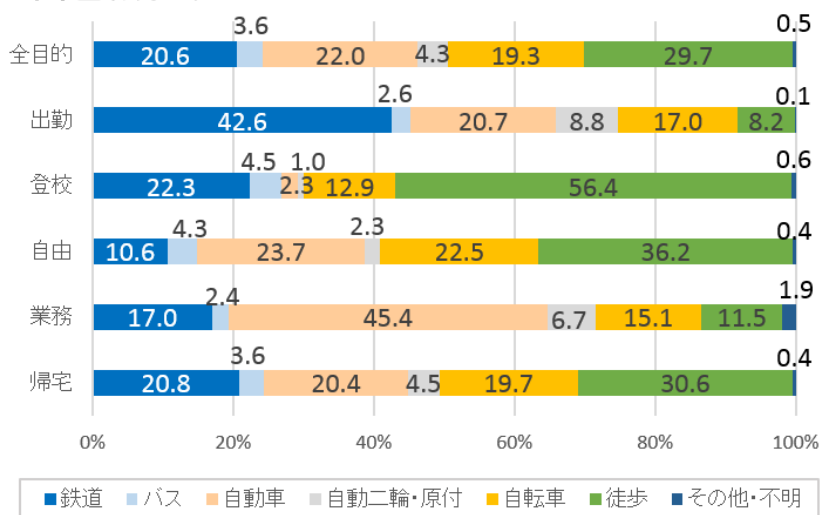


図2. 6 本市全域の目的別代表交通手段構成

出典：近畿圏パーソントリップ調査

2. 4 本市内各駅への手段別アクセス状況

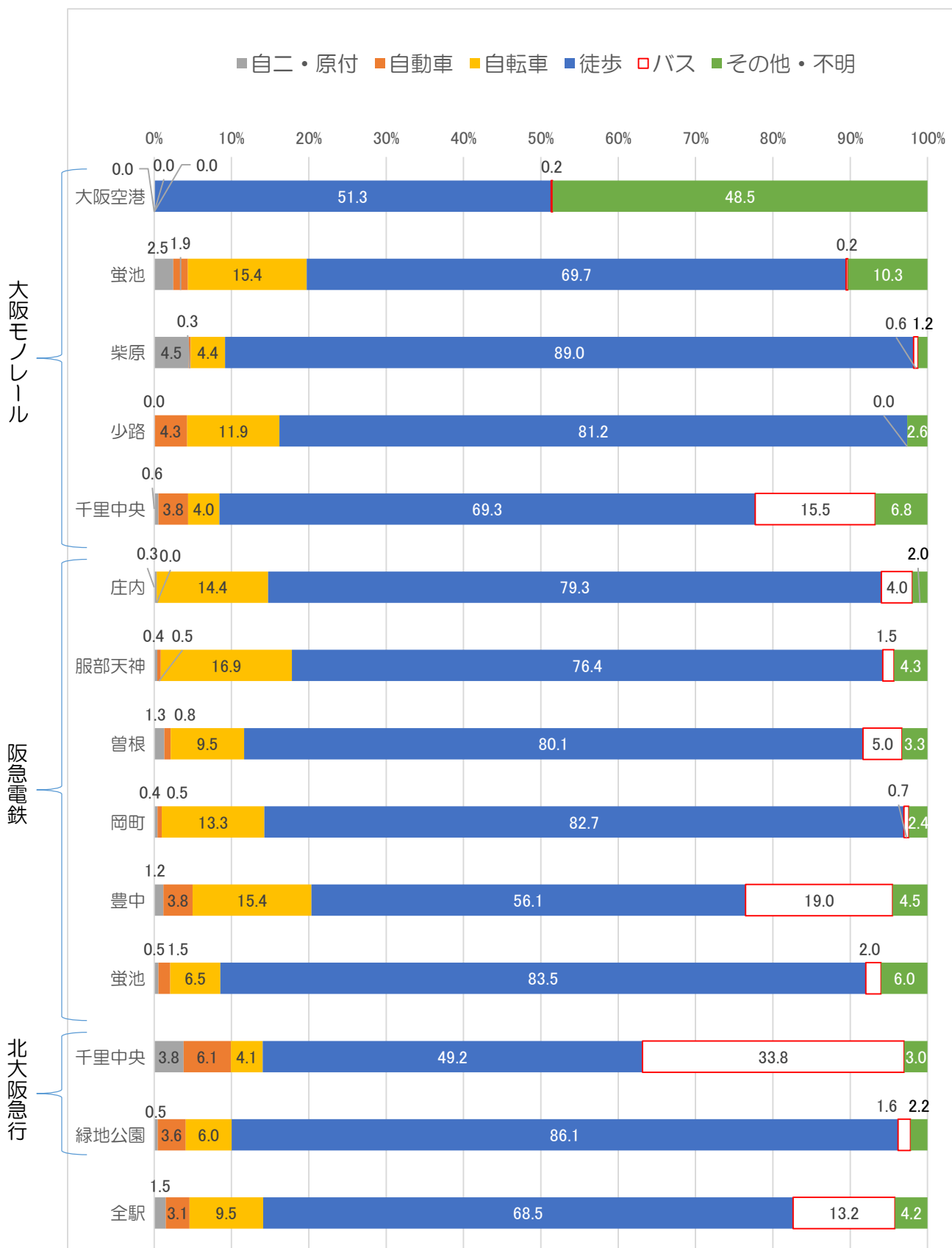


図2. 7 本市内各駅への手段別アクセス状況

出典：近畿圏パーソントリップ調査

3. 本市内の公共交通利用状況調査

3. 1 調査の概要

(1) 調査の対象者

- 本市在住の満 15 歳以上の男女 8,000 人

(2) 調査対象者の抽出方法

- 平成 26 年 4 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出

(3) 有効回答数

- 発送数及び有効回答数は以下のとおり

表 3. 1 有効発送数と有効回答数

発送数 (件)	回収総数 (件)	無効数 (件)	有効回答数 (件)	有効回答率 (%)
8,000	3,156	2	3,154	39.4

注：回収した調査票のうち白紙のものを無効としている。

3. 2 最寄り駅や最寄りバス停までの所要時間等

○最寄り駅・バス停までの所要時間

- 徒歩や自転車等で 10 分以内に最寄り駅へ到達できる回答者は、約 6 割である
- 徒歩で 5 分以内に最寄りバス停へ到達できる回答者は、約 7 割である

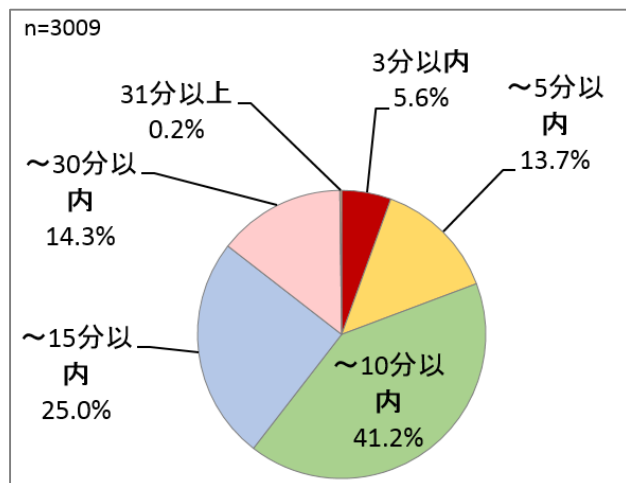


図3. 1 最寄り駅までの徒歩・自転車等での所要時間

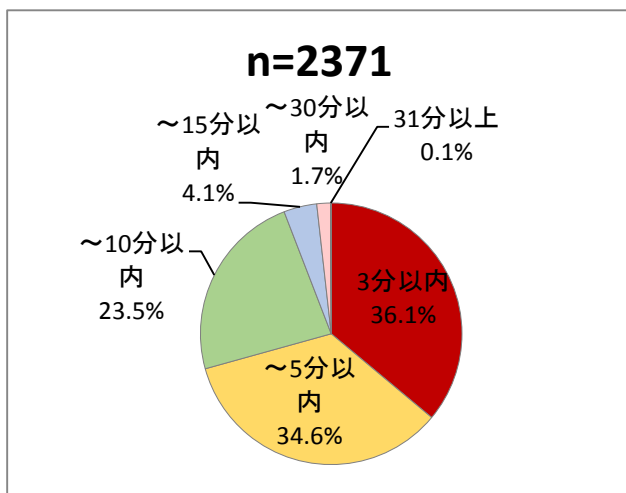


図3. 2 最寄りバス停までの徒歩での所要時間

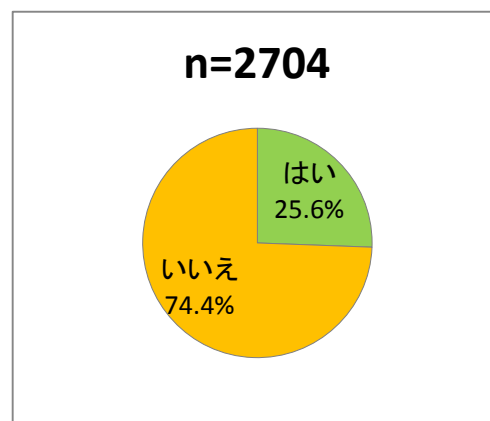


図3. 3 最寄りバス停の把握状況

「n」はサンプル数を表す

○最寄り駅と交通手段

- 最寄り駅への交通手段は徒歩が7割、自転車が2割弱である

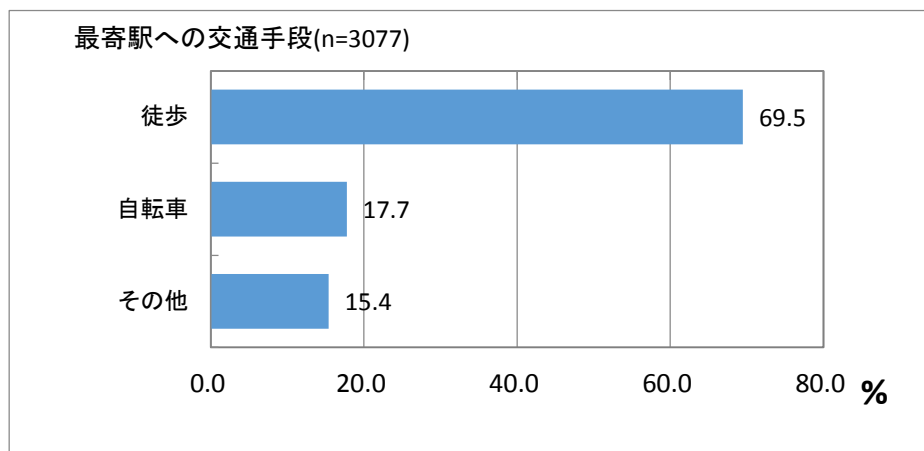


図3. 4 最寄り駅への交通手段（複数回答）

3. 3 日常生活における移動制約

○移動制約を感じる人の割合

- 目的別では、通院が13.0%、買い物が10.8%、通勤・通学が10.1%である

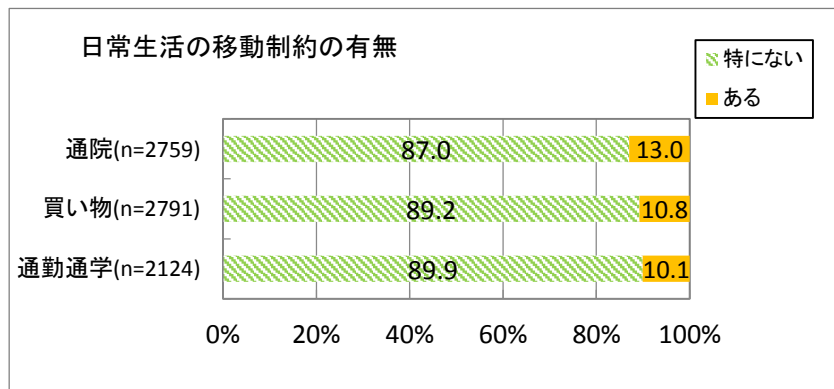


図3. 5 日常生活の移動制約の有無

3. 3. 1 通勤・通学における移動制約

○移動制約を感じる人の割合

- 年齢別では、10歳代の回答者では22.0%を占める
- 地区別では、東部・西部・北部において、10%を越えている

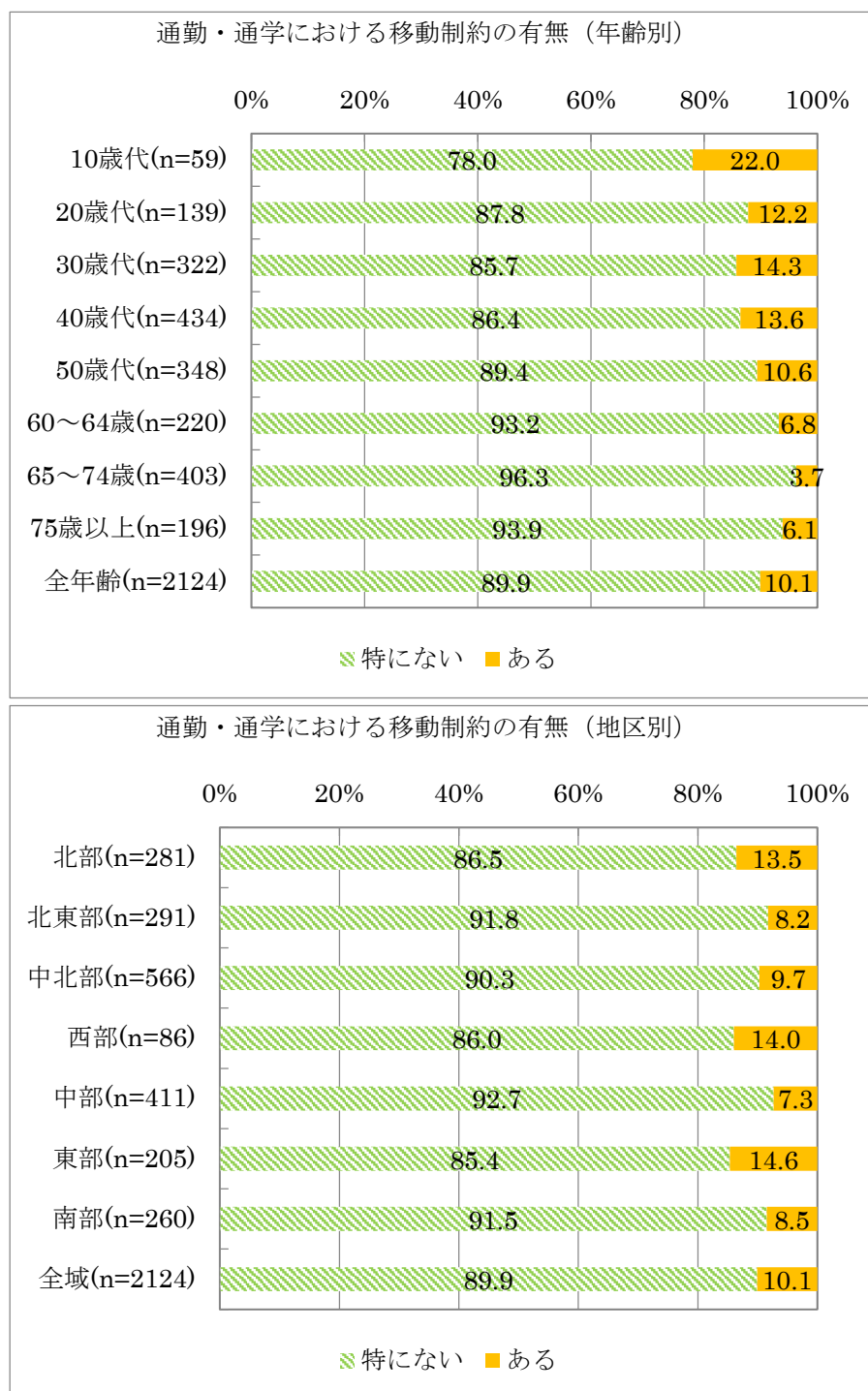


図3. 6
通勤・通学における
移動制約の有無

3. 3. 2 買い物における移動制約

○移動制約を感じる人の割合

- 年齢別では、75歳以上では16.0%、30歳代では13.7%の順で高い
- 地区別では、西部が20.3%、北部が14.3%の順で高く、中部が5.1%、南部が9.9%の順で低い

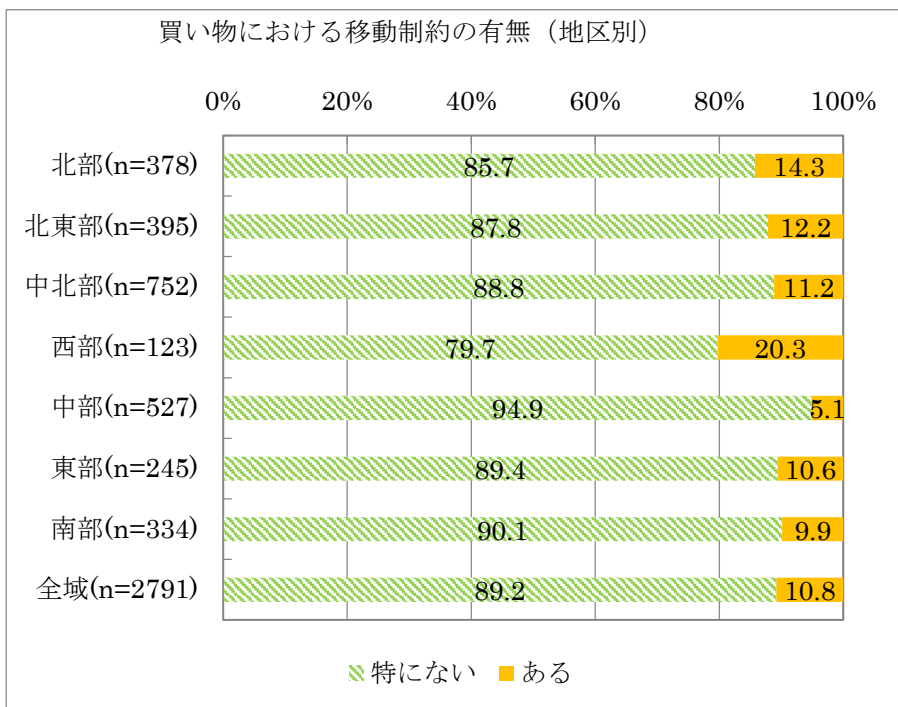
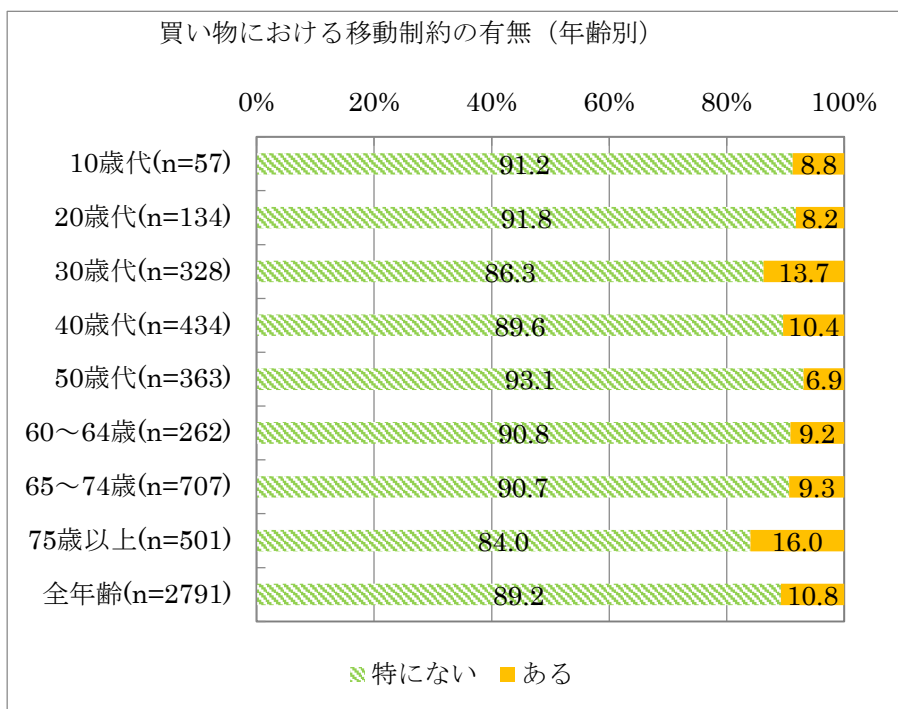


図3. 7
買い物における移動
制約の有無

3. 3. 3 通院における移動制約

○移動制約を感じる人の割合

- 年齢別では、75歳以上が22.5%、65～74歳が13.9%の順で高い
- 地区別では、西部が22.1%、北部が18.9%の順で高く、北東部が8.9%、中部が10.0%の順で低い

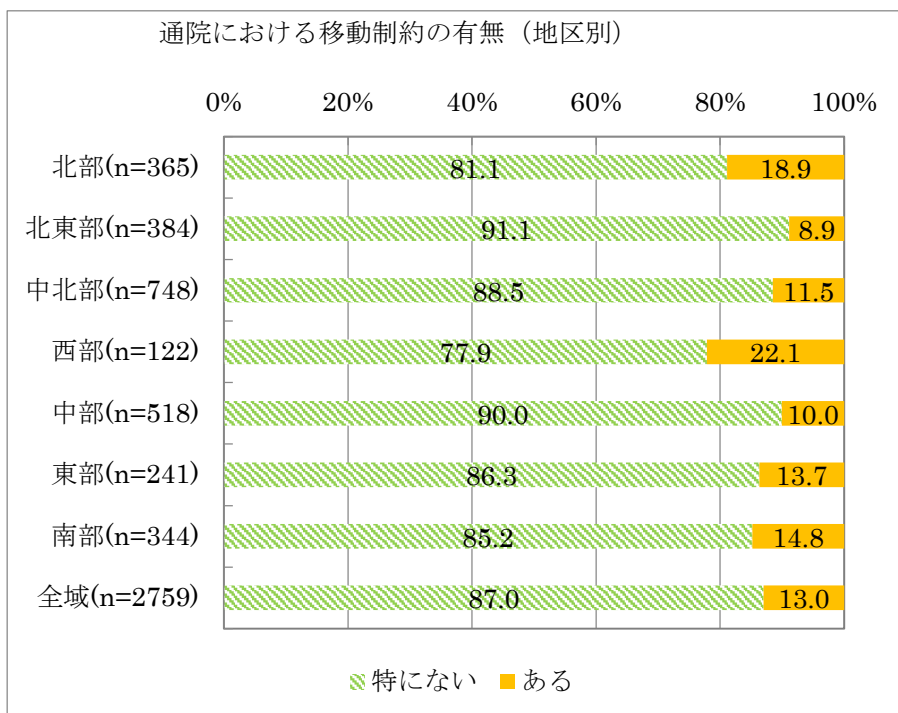
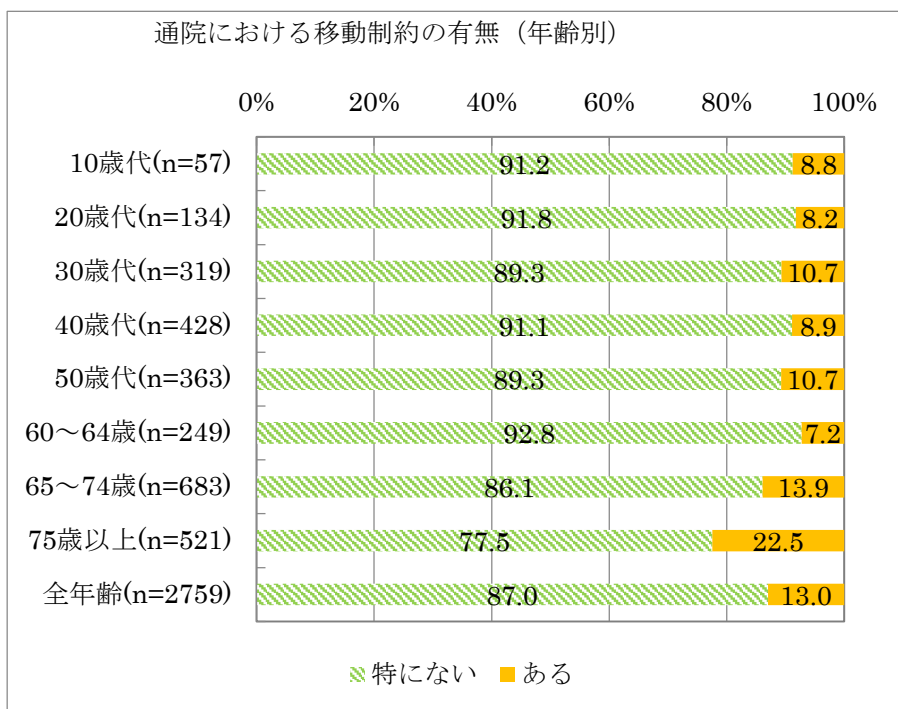


図3. 7
通院における移動制約の有無

豊中市の公共交通利用状況

平成 27 年（2015 年）6 月発行

【発行所】

豊中市都市基盤部交通政策課

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号

T E L : 06-6858-2340

F A X : 06-6854-0492

E-m a i l : koutsuukikaku@city.toyonaka.osaka.jp